

ありま



令和8年9月30日
学校だより10月号
川崎市立有馬小学校

良し悪し…「悪し」の見極め

学校長 吾妻 典子

金木犀の花が咲き、香りを漂わせています。今年の金木犀は昨年より1ヶ月も早いのだとか。秋の訪れは嗅覚（香り）聴覚（虫の音他）視覚（木々の色・雲型等）味覚（食べ物等）触覚（気温変化等）あらゆる五感から感じさせてくれます。

17日から始まった子どもを交えての三者面談。子どもにとってどんな感じ方をしたのでしょうか？担任の前で、親子で話を聞く・話をする機会はそうありません。後期につながる時間になっているものと期待しています。

さて、今月は土砂災害レベル4での臨時休業、長雨、そしてまた台風など、雨と付き合う時間が多かった月だったように思えます。今の状況だと雨は洪水や作物の不作の災害をもたらす負のイメージになっていますが、私たちが生きていく上ではなくてはならない重要な一面ももちあわせています。しかし、それらを忘れてしまうくらいの災害級の雨量になっているのが現状ですね。これ以上の災害が起こらないことを願うばかりです。

それでも、雨の『良し悪し』の「良し」を考えた時に、まずは「恵みの雨」という言葉がすぐに浮かんできます。潤いた土地を潤す雨。ありがたい雨が降った時に一般的に使われる言葉です。他にも

「穀雨（こくう）」穀物の成長を促す雨のこと。 「喜雨（きう）」日照り続きの後に降る雨
「涼雨（りょうう）」夏の終わりに涼しさをもたらす雨 「甘雨（かんう）」草木を潤すしとしと降る雨
など、雨の「良し」とした捉えの言葉は、調べるとこの言葉以外にもたくさんあるのです。

雨に限らず『良し悪し』は何にでもあり、雨も、命を救う雨、時には命を奪う雨。良し悪し両面の顔をもっています。子どもたちも同じで誰にでも『良し悪し』があります。しかし、学校生活上において、成長段階の未経験値から「悪し」の一部分「この言葉は言っているのか？」「これ以上これを続けていたら…」等の見極めが難しい場面をよく見ます。大人も子どもも全てが「良し」のみで過ごせるのは中々難しいものです。だからこそ、子どもたちにも「悪し」の見極めをし、そして、万が一自分の「悪し」に踏み入れた際、見極めを学び、また「良し」の方向にもっていける矯正力等を身につけてほしいと思います。自然界では一切通じない話ですが、人間には思考・判断力があります。子どもたちも「悪し」の部分はこの力と自分次第で回避できると信じています。

前期が終了します。これまでの保護者の皆様、地域の皆様のお力添えに感謝申し上げます。

後期も、子どもたちの「良し」の面がさらにたくさん育まれ、「こうべをたれる程の実りある日々」が過ごせるよう、前期同様、教育活動にご理解・ご協力よろしくお願いいたします。



○教育相談窓口：相談窓口担当は、支援教育コーディネーターです

○学校巡回カウンセラーの来校日は、10月15日、10月29日です。

*相談ご希望の方は、電話でお申し込みください。（担当：支援教育C0 有馬小学校 866-1447）